



【日本プロテオーム学会通信 No. 54】

2010. 8. 23

【日本プロテオーム学会通信】は、日本プロテオーム学会会員の皆様に配信しています。

【JHUPO 第 8 回大会報告】

7月26日～27日の2日間、JHUPO 第8回大会（日本プロテオーム学会 2010 年会）が国立がんセンター研究所山田哲司先生の主宰で東京ベイホテル東急（千葉県浦安市）にて開催されました。参加者は500名を越えました。今回の学会から日本プロテオーム学会賞と日本プロテオーム学会奨励賞が授与されるようになりました。本年度の受賞者は下記の方々でした。賞状と副賞が平野久会長から授与されました。

学会賞受賞者（五十音順）

磯辺俊明（首都大学東京 大学院理工学研究科）

受賞題目：液体クロマトグラフィー-質量分析法を中心とするプロテオーム解析技術の開発とその応用

中村和行（山口大学大学院医学系研究科）

受賞題目：肝細胞癌の分子病態に関するプロテオーム研究

奨励賞受賞者（五十音順）

杉山直幸（慶應義塾大学先端生命科学研究所）

受賞業績：高選択的リン酸化ペプチド濃縮技術の開発とリン酸化プロテオーム解析への応用

松原 淳一（国立がんセンター研究所化学療法部）

受賞業績：切除不能膵がんに対するゲムシタビン療法の副作用・予後予測マーカーの開発

これまで HUP0, JHUPO で受賞した会員

1. 2009 年度 HUP0 Distinguished Service Award：谷口直之
2. 平成 22 年度日本プロテオーム学会賞：磯辺俊明，中村和行
3. 平成 22 年度日本プロテオーム学会奨励賞：杉山直幸，松原 淳一

なお、JHUP0 第 8 回大会を主宰された山田哲司先生から下記のご報告をいただきました。

日本ヒトプロテオーム機構第 8 回大会を終えて

去る 7 月 26 日と 27 日の 2 日間、日本臨床プロテオーム研究会との連合大会として第 8 回大会（日本プロテオーム学会 2010 年会）を東京ベイホテル東急（千葉県浦安市）にて開催し、盛会裡に終了することができましたことをご報告申し上げます。海外からの 11 人の講演者をはじめ、多くの方に参加いただけ、たいへん盛会となりました。また、ご協賛いただいた企業の関係者の皆様、ご苦勞様でした。本当に有難うございました。親睦会には予測以上の参加者があり、密度の高い話しができましたが、やや混雑したことをお詫び申し上げます。一部マスコミに報道され、プロテオーム研究の重要性を社会的にアピールすることもできたと思います。

7 月 27 日には下記の 6 演題が連合大会の優秀演題に選ばれ、表彰させていただきました。選ばれなかった演題にも優れたものが数多くありましたが、絞らざるを得ず申し訳ございませんでした。演題をご応募いただいた方全員と厳正な審査をしていただいた先生方にあらためて御礼を申し上げます。

【優秀演題賞受賞者氏名（敬称略）と演題名】

松原淳一（京都大学）「新しい血中低分子タンパク分離濃縮技術を用いた血液前処理法と 2DICAL による膵がん診断マーカーの開発」

金子勲（大正製薬株式会社）「同位体標識法(cICAT)によるスキルス胃がん患者組織の網羅的たんぱく質解析：血液幹細胞系受容体及び線維化・炎症系たんぱく質の特異的な強発現」

長野光司（中外製薬株式会社）「ビオチンラベル法と糖蛋白質捕捉法による細胞表面蛋白質のプロファイリング」

川村猛（東京大学）「エピゲノム創薬のためのヒストンメチル化酵素阻害剤スクリーニング」

京野完（慶応義塾大学）「ヒドロキシ酸修飾酸化金属クロマトグラフィー (HAMMOG) による高性能リン酸化プロテオミクス」

有戸光美（聖マリアンナ医科大学）「「アセチル化」プロテオミクスによる関節リウマチ (RA) 関連分子の探索」

日本のプロテオームは新時代を迎えることができました。来年またお会いし、

大いに議論しましょう。

国立がん研究センター研究所化学療法部
山田哲司

【HUP0 第9回世界大会】

HUP0 第9回世界大会は9月19日～23日にオーストラリアシドニーで開催されます。詳細は www.HUP02010.com をご覧下さい。HUP0の会員になりましょう。会員は特別な登録料でHUP0世界大会に参加できます。

【日本プロテオーム学会通信】に対するご意見をメールにてお寄せ下さい
(宛先は hirano@yokohama-cu.ac.jp)。ご意見を【日本プロテオーム学会通信】
に掲載希望の場合はその旨お知らせ下さい。

【アドレス変更/配信中止】【ご質問・お問合せ】は、日本プロテオーム学会事務局(cljhupo@secretariat.ne.jp)にお願いいたします。